
—ダイキン「第10回 現代人の空気感調査」—
総合報告書

**団塊世代層と団塊ジュニア世代層
夫婦の空気に関する調査結果**

平成19年2月

ダイキン工業株式会社 広報部

<目次>

I. 調査概要	1
1. 調査目的	2
2. 調査の実施要領	2
3. 回答者の基本属性	3
II. 調査結果	4
1. 夫婦だけで過ごす時間の増減傾向	5
2. 夫婦だけで過ごす時間数	6
(1) 平日に夫婦だけで過ごす時間数	6
(2) 休日に夫婦だけで過ごす時間数	8
3. 夫婦だけで過ごす時間が増えることへの考え	10
4. 配偶者と一緒にいる時の体感温度	12
(1) 配偶者と一緒にいる時の体感温度	12
(2) 体感温度が上がったり下がったりする理由	13
(3) 体感温度の上がる温度と下がる温度	17
(4) 最近体感温度が上がったこと	19
(5) 最近体感温度が下がったこと	22
5. エアコンの温度調節	24
(1) エアコンの温度決定権を持つ人	24
(2) 温度調整でもめることの有無	25
(3) 温度設定でもめる内容	26
(4) 好みの設定温度が異なる時の対処方法	27
(5) 夫婦間での好みの室温の差	28
6. 夫婦で一緒にいる時に起きそうな問題	30
7. エアコンの使用頻度	32

I . 調查概要

1. 調査目的

ダイキン工業では、“空気”にこだわり、また空調の技術を進化させてきた空調のトップメーカーとして、日頃あまり意識されてこなかった“空気”について、もっと多くの方々に興味を持っていただきたいと考え、2002年から“空気”に関する現代人の意識を探るための「現代人の空気感調査」を実施してきました。

10回目となる今回の調査は、わが家における夫と妻の空気感を捉え、「団塊世代層（熟年夫婦）」と「団塊ジュニア層（新米夫婦）」の空気感の違い、「夫」と「妻」の空気感の違いを浮き彫りにするために、首都圏及び関西圏に居住する団塊世代層と団塊ジュニア層の既婚男女400人を対象に空気環境と生活について、アンケートを実施しました。

2. 調査の実施要領

(1) 調査対象及びサンプル数：

首都圏及び関西圏に居住する団塊世代層と団塊ジュニア層の既婚男性、女性、400人
※回答した男性と女性は、夫婦ではありません。

＜サンプル配分＞

	団塊世代層【熟年夫婦】		団塊ジュニア層【新米夫婦】	
	既婚男性（夫）	既婚女性（妻）	既婚男性（夫）	既婚女性（妻）
首都圏	50	50	50	50
関西圏	50	50	50	50

＜サンプルの定義及び条件＞

①年齢・結婚歴

団塊世代層【熟年夫婦】：

昭和19年～27年生まれ（54～62歳）で、結婚歴20年以上

団塊ジュニア世代層【新米夫婦】：

昭和48年～55年生まれ（26～33歳）で、結婚歴3年未満

②居住地域

首都圏：東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県

関西圏：大阪府、京都府、兵庫県、奈良県

③家族構成

「夫婦のみ」または「夫婦と子ども」

(2) 調査方法：Web調査

(3) 調査時期：2007年1月12日（金）～1月15日（月）

(4) 調査項目：

- ・夫婦だけで過ごす時間の増減傾向と具体的時間数
- ・夫婦だけで過ごす時間が増えることに対する意識
- ・夫婦で一緒にいる時の体感温度
- ・夫婦で一緒にいる時のエアコンの温度調整
- ・夫婦で一緒にいる時に空気に関して起きそうな問題
- ・家庭でのエアコンの利用状況

3. 回答者の基本属性

■職業

	会社員・公務員	自営業	専門職	自由業	パート・アルバイト	専業主婦	無職 (含定年退職)	その他
全体	194 48.5%	29 7.3%	7 7.8%	6 1.5%	35 8.8%	118 29.5%	9 2.3%	2 0.5%
団塊世代層 【熟年夫婦】	76 38.0%	25 2.0%	- -	4 2.0%	16 8.0%	68 34.0%	9 4.5%	2 1.0%
団塊ジュニア世代層 【新米夫婦】	118 59.0%	19 19.0%	7 3.5%	2 2.0%	19 9.5%	50 25.0%	- -	- -

■住居形態

	持ち家 一戸建て	分譲 集合住宅	借家 一戸建て	賃貸 集合住宅	社宅・官舎・寮
全体	147 36.8%	89 22.3%	10 2.5%	141 35.3%	13 3.3%
団塊世代層 【熟年夫婦】	118 59.0%	62 31.0%	4 2.0%	13 6.5%	3 1.5%
団塊ジュニア世代層 【新米夫婦】	29 14.5%	27 13.5%	6 3.0%	128 64.0%	10 5.0%

■家族構成

	夫婦のみ	夫婦と子ども
全体	192 48.0%	208 52.0%
団塊世代層 【熟年夫婦】	66 33.0%	134 67.0%
団塊ジュニア世代層 【新米夫婦】	126 63.0%	74 37.0%

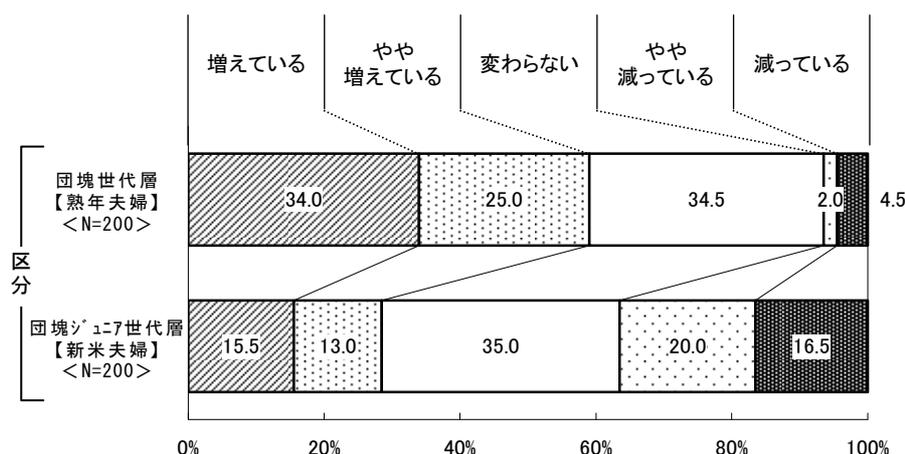
Ⅱ. 調査結果

1. 夫婦だけで過ごす時間の増減傾向

【熟年夫婦】は「増えている」(34.0%)が3割強、「やや増えている」(25.0%)が2割強と、“増えている”(59.0%)が6割弱を占めるが、【新米夫婦】は“増えている”(28.5%)より“減っている”(36.5%)の方が多。

◆【熟年夫婦】の<夫婦のみの世帯>は「増えている」(43.9%)がとりわけ多いが、【新米夫婦】の<夫婦と子どもの世帯>は「増えている」(4.1%)、「やや増えている」(10.8%)ともごくわずか。

図1. 夫婦だけで過ごす時間の増減傾向



最近、夫婦だけで過ごす時間は増えているのでしょうか、減っているのでしょうか。夫婦だけで過ごす時間の増減傾向について聞いてみました。

【熟年夫婦】は「増えている」(34.0%)が3割を超えており、「やや増えている」(25.0%)も2割強を占めるなど、両者をあわせた“増えている”(59.0%)は6割弱を占め、「減っている」(4.5%)や「やや減っている」(2.0%)の“減っている”(6.5%)はごくわずかです。

一方、【新米夫婦】は「増えている」(15.5%)、「やや増えている」(13.0%)ともに1割強にとどまっており、“増えている”(28.5%)は3割弱にすぎず、「やや減っている」(20.0%)と「減っている」(16.5%)をあわせた“減っている”(36.5%)を下回っています。

- 職業別に見ると、【熟年夫婦】は<専業主婦><商工サービス自営>に「増えている」(44.1%、36.0%)がとりわけ多くなっていますが、【新米夫婦】はいずれの職業でも「増えている」「やや増えている」がさほど多くありません。
- 家族構成別に見ると、【熟年夫婦】の<夫婦のみの世帯>では「増えている」(43.9%)が4割を超えており他の属性を大きく上回っています。これに対し、【新米夫婦】は<夫婦のみの世帯>で「増えている」(22.2%)、「やや増えている」(14.3%)がともに【熟年夫婦】を下回り、<夫婦と子どもの世帯>では「増えている」はわずか4.1%、「やや増えている」(10.8%)も1割にすぎません。

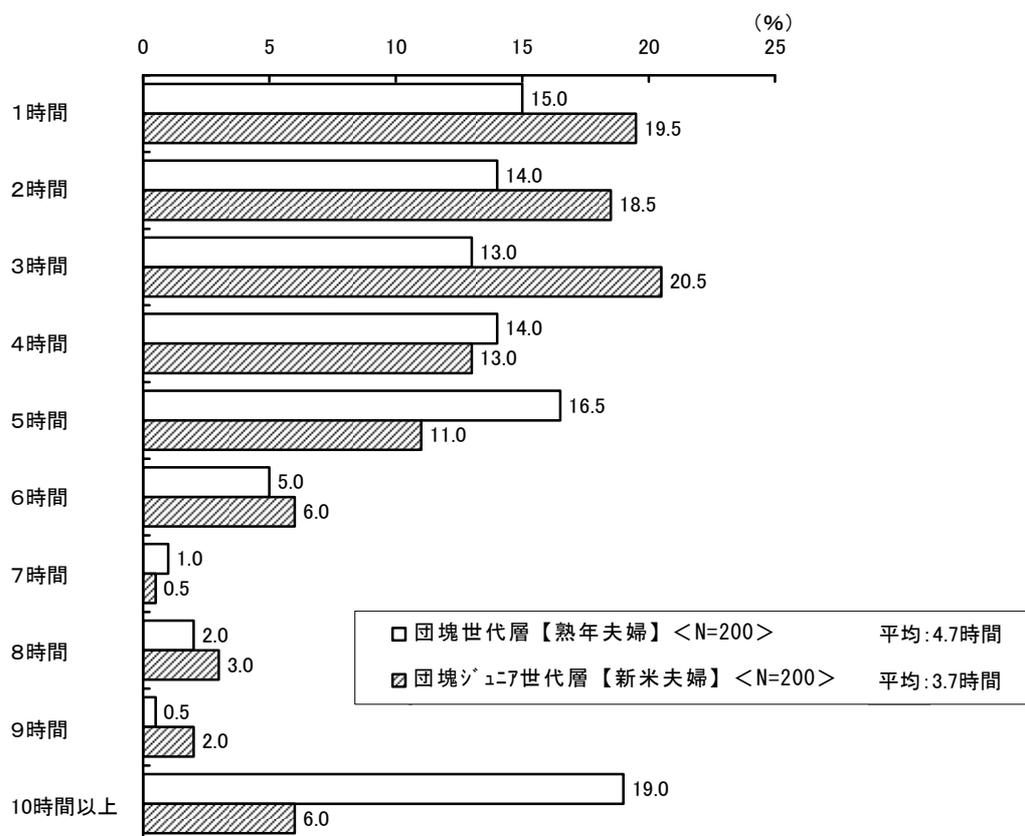
2. 夫婦だけで過ごす時間数

(1) 平日に夫婦だけで過ごす時間数

【熟年夫婦】は「10 時間以上」(19.0%) が最も多いが、【新米夫婦】は「3 時間」(20.5%)、「1 時間」(19.5%)、「2 時間」(18.5%) が多い。平均時間は【熟年夫婦】の 4.7 時間に対し、【新米夫婦】は 3.7 時間と、1 時間の開き。

◆家族構成別に見て、＜夫婦と子どもの世帯＞は【熟年夫婦】【新米夫婦】とも「1 時間」「2 時間」が最も多く、＜夫婦のみの世帯＞より短い。

図 2. 平日に夫婦だけで過ごす時間数



では、実際にどれくらいの時間を夫婦だけで過ごしているのでしょうか。まず、平日の時間数を聞きました。

【熟年夫婦】は「10 時間以上」(19.0%) が最も多く、次いで「5 時間」(16.5%) の順となっていますが、【新米夫婦】では「3 時間」(20.5%) が最も多く、次いで「1 時間」(19.5%)、「2 時間」(18.5%) の順となっており、「3 時間以下」(58.5%) が 6 割弱を占めています。

平均時間は【熟年夫婦】が 4.7 時間、【新米夫婦】が 3.7 時間と、1 時間の開きがあります。

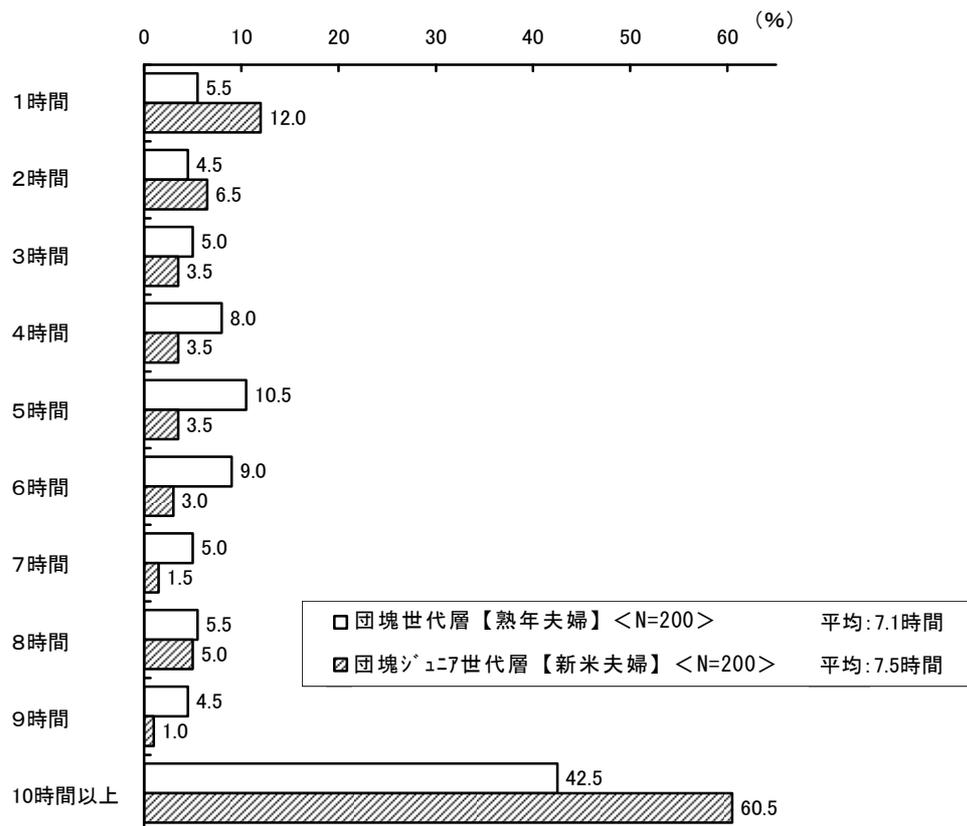
- 地域別に見ると、【熟年夫婦】は地域による差はほとんど見られず、平均時間は＜首都圏＞が4.8時間、＜関西圏＞が4.6時間となっています。一方、【新米夫婦】では＜首都圏＞は「1時間」（23.0%）、「2時間」（20.0%）が＜関西圏＞（16.0%、17.0%）を上回っており、平均時間も3.4時間と、＜関西圏＞（3.9時間）より短くなっています。
- 家族構成別に見ると、当然ながら＜夫婦のみの世帯＞は＜夫婦と子どもの世帯＞より長くなっています。時間帯では、【熟年夫婦】の＜夫婦のみの世帯＞は「10時間以上」（33.3%）が最も多く、【新米夫婦】の＜夫婦のみの世帯＞は「3時間」（22.2%）が最も多くなっていますが、＜夫婦と子どもの世帯＞は【熟年夫婦】【新米夫婦】とも「1時間」（21.6%、40.5%）が最も多く、次いで「2時間」（17.2%、20.3%）が多くなっています。平均時間は【熟年夫婦】の＜夫婦のみの世帯＞が6.3時間、【新米夫婦】の＜夫婦のみの世帯＞が4.4時間で、＜夫婦と子どもの世帯＞（熟年夫婦3.9時間、新米夫婦2.2時間）を大きく上回っています。

(2) 休日に夫婦だけで過ごす時間数

【熟年夫婦】【新米夫婦】とも「10 時間以上」が最も多いが、その割合は【新米夫婦】（60.5%）が【熟年夫婦】（42.5%）を上回る。平均時間も【熟年夫婦】の 7.1 時間に対して、【新米夫婦】は 7.5 時間とやや長い。

◆【新米夫婦】の＜夫婦のみの世帯＞は平均時間が 9.2 時間で、＜夫婦と子どもの世帯＞（4.5 時間）を大きく上回る。

図 3. 休日に夫婦だけで過ごす時間数



また、休日にどれくらいの時間を夫婦だけで過ごしているのかについても聞きました。

【熟年夫婦】【新米夫婦】ともに「10 時間以上」が断然多いという結果ですが、その割合を見ると【新米夫婦】（60.5%）は 6 割を占めており、【熟年夫婦】（42.5%）を上回っています。平均時間も【熟年夫婦】の 7.1 時間に対して、【新米夫婦】は 7.5 時間とやや上回っています。【新米夫婦】は平日に夫婦だけで過ごす時間があまりとれなかった分、休日に取り戻しているのでしょうか。

- 性別に見ると、【熟年夫婦】の＜女性＞は「10 時間以上」（50.0%）の割合が＜男性＞（35.0%）を上回っており、平均時間も＜男性＞の 6.8 時間に対して＜女性＞は 7.4 時間と長く答えています。熟年夫婦は夫よりも妻の方が“長く一緒に過ごしている”という意識が強いようです。

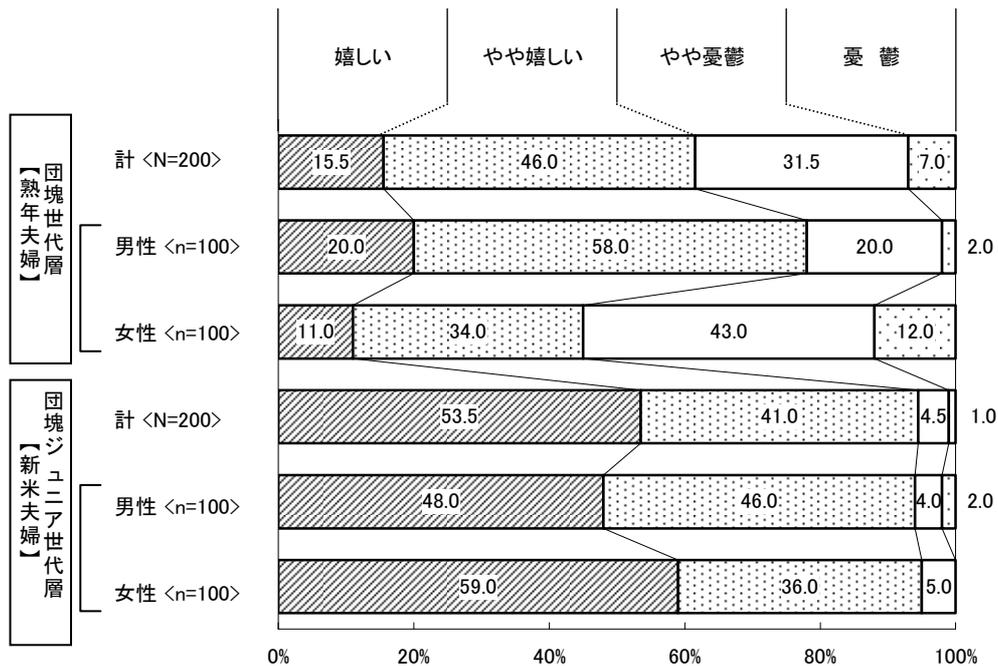
- 地域別に見ると、【熟年夫婦】では<関西圏>は「10 時間以上」(38.0%) が 4 割弱、平均時間が 6.7 時間ですが、<首都圏>は「10 時間以上」(47.0%) が半数近くを占めており、平均時間も 7.5 時間と<関西圏>を上回っています。一方、【新米夫婦】は<首都圏><関西圏>とも「10 時間以上」(59.0%、62.0%) が 6 割前後を示し、平均時間(7.3 時間、7.7 時間) もともに 7 時間を超えるなど、あまり大きな差はありません。
- 家族構成別に見ると、【熟年夫婦】の<夫婦のみの世帯>は「10 時間以上」(65.2%) が 6 割を超え、平均時間(8.5 時間) も 9 時間を超えるなど、<夫婦と子どもの世帯>(31.3%、6.5 時間) を大きく上回っています。【新米夫婦】も同様に<夫婦のみの世帯>が「10 時間以上」(80.2%)、平均時間(9.2 時間) とともに<夫婦と子どもの世帯>(27.0%、4.5 時間) を大きく上回っていますが、その差は【新米夫婦】の方が大きくなっています。

3. 夫婦だけで過ごす時間が増えることへの考え

【新米夫婦】は“嬉しい”（94.5%）が9割を大きく超えるが、【熟年夫婦】では“嬉しい”（61.5%）は6割にとどまり“憂鬱”（38.5%）が4割弱を占める。

◆【新米夫婦】の<女性>は「嬉しい」（59.0%）が<男性>（48.0%）を上回っているが、【熟年夫婦】の<女性>は「嬉しい」（11.0%）、「やや嬉しい」（34.0%）とも<男性>（20.0%、58.0%）を下回り、半数以上が“憂鬱”（55.0%）と回答。

図4. 夫婦だけで過ごす時間が増えることをどう思うか



では、夫婦だけで過ごす時間が増えることについてはどのように思っているのでしょうか。

【新米夫婦】は「嬉しい」（53.5%）が半数強、「やや嬉しい」（41.0%）も4割強を示しており、あわせると“嬉しい”（94.5%）が9割を大きく超え、圧倒的に多数を占めます。

一方、【熟年夫婦】は「嬉しい」（15.5%）は1割強にとどまり、「やや嬉しい」（46.0%）をあわせても“嬉しい”（61.5%）は6割強にすぎず、「やや憂鬱」（31.5%）と「憂鬱」（7.0%）をあわせた“憂鬱”（38.5%）が4割弱を示しています。

- 性別に見ると、【新米夫婦】の<女性>は「嬉しい」（59.0%）がほぼ6割を占めており、【新米夫婦】の<男性>（48.0%）を上回っていますが、【熟年夫婦】では<女性>は「嬉しい」（11.0%）がわずか1割にすぎず、「やや嬉しい」（34.0%）も3割強と、ともに<男性>（20.0%、58.0%）を下回っており、“憂鬱”（55.0%）が半数を超えています。<女性>の方が“冷め方”は<男性>より大きいようです。

- 職業別に見ると、＜専業主婦＞は、【新米夫婦】では「嬉しい」（62.0％）が6割強を占めていますが、【熟年夫婦】（10.3％）では1割にとどまっています。“冷め方”が強いという傾向は、女性のなかでも＜専業主婦＞にとりわけ顕著と言えそうです。
- 家族構成別に見ると、【熟年夫婦】は＜夫婦のみの世帯＞と＜夫婦と子どもの世帯＞の間に大きな差は見られませんが、【新米夫婦】では＜夫婦のみの世帯＞は「嬉しい」（56.3％）が半数を超えており、＜夫婦と子どもの世帯＞（48.6％）を上回っています。＜女性＞が“冷めていく”傾向は子どもが生まれた頃から始まるのでしょうか。

4. 配偶者と一緒にいる時の体感温度

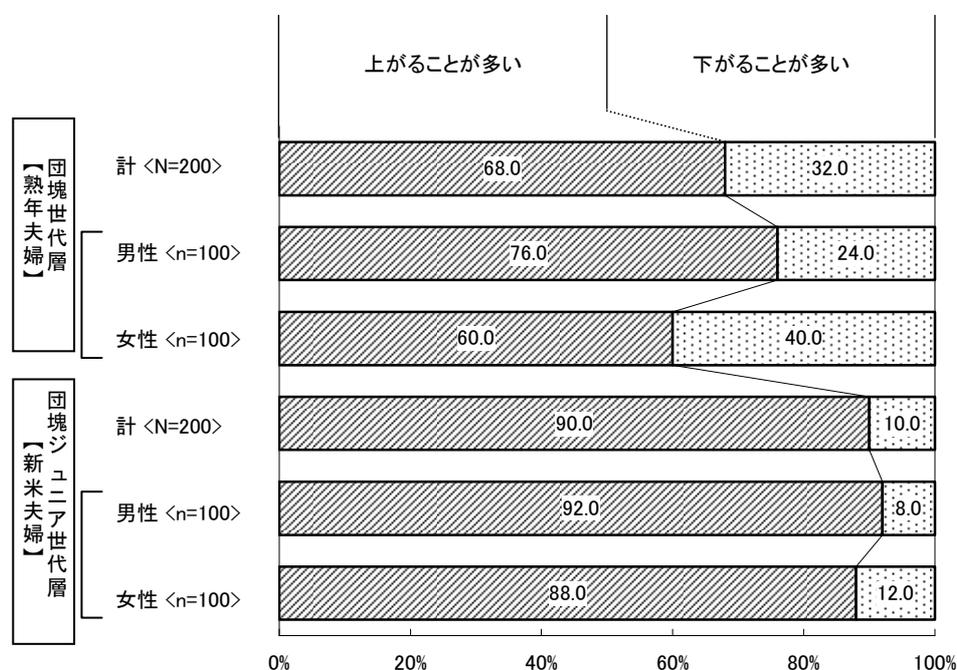
※『体感温度』は「気温」だけで決まるのではなく、「湿度」「風速」「放射量」といった気象要素のほか、「運動等による代謝量」「心理的な状態」など個々の人体条件の影響を受けます。ここでは、そのうちの「心理的な状態」だけに絞って“夫婦間の体感温度”について聞きました。

(1) 配偶者と一緒にいる時の体感温度

【新米夫婦】は「上がることが多い」(90.0%)が9割、【熟年夫婦】(68.0%)も7割弱を占め、「下がるが多い」と感じる人は両世代とも少ない。

◆【熟年夫婦】【新米夫婦】とも<男性>の方が「上がることが多い」(76.0%、92.0%)が多い。

図5. 配偶者と一緒にいる時の体感温度



夫婦で一緒にいる時、体感温度は上がる人が多いのでしょうか、それとも下がる人が多いのでしょうか。どちらが多いのか聞いてみました。

【熟年夫婦】は「上がることが多い」(68.0%)が7割弱を占めており、「下がるが多い」(32.0%)は3割強にとどまっています。【新米夫婦】は【熟年夫婦】以上に「上がる人が多い」(90.0%)が多く、「下がるが多い」(10.0%)はごくわずかです。

- 性別に見ると、【熟年夫婦】【新米夫婦】とも<男性>の方が「上がる人が多い」(76.0%、92.0%)が多く、<女性>(60.0%、88.0%)を上回っています。

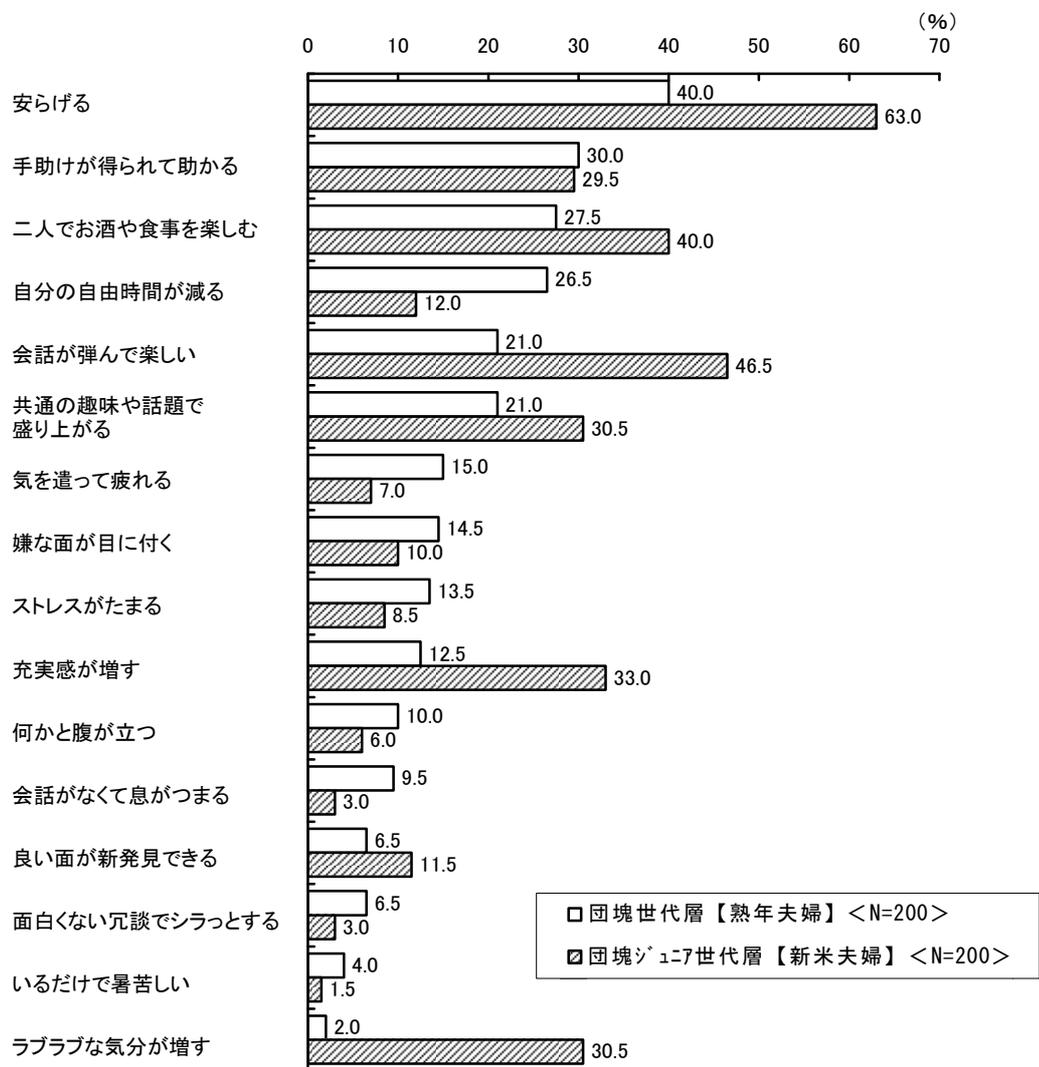
(2) 体感温度が上がったり下がったりする理由

体感温度が変わる理由は【熟年夫婦】では「安らげる」(40.0%)など“良い気分”による理由が多いが、「自分の自由時間が減る」(26.5%)などの“悪い気分”による理由もあげられているが、【新米夫婦】は「安らげる」(63.0%)など“良い気分”による理由がほとんど。

“体感温度が上がる”とは良い気分の時、“体感温度が下がる”とは悪い気分の時。

◆【新米夫婦】の<男性><女性>、【熟年夫婦】の<男性>は「安らげる」を始め“良い気分”による理由が上位を占めるが、【熟年夫婦】の<女性>は“悪い気分”による理由の「自分の自由時間が減る」(39.0%)が最も多い。

図6. 体感温度が上がったり下がったりする理由【複数回答】



体感温度が上がったり下がったりするには、“良い気分になって上がる”場合と“気分を害して上がる”場合、“心地よくなって下がる”場合と“気持ちが冷めて下がる”場合といったように、上がる場合下がる場合ともに“良い気分”によるものと“悪い気

分”によるものがあります。回答者の体感温度はどのような理由で上がったり下がったりするのでしょうか。その理由を聞きました。

【熟年夫婦】は「安らげる」(40.0%)が最も多く、そのほか「手助けが得られて助かる」(30.0%)、「二人でお酒や食事を楽しむ」(27.5%)、「会話が弾んで楽しい」「共通の趣味や話題で盛り上がる」(各 21.0%)など“良い気分”による理由があげられていますが、その一方で「自分の自由時間が減る」(26.5%)、「気を遣って疲れる」(15.0%)、「嫌な面が目につく」(14.5%)などの“悪い気分”による理由もあげられています。

【新米夫婦】も「安らげる」(63.0%)が最も多く、以下「会話が弾んで楽しい」(46.5%)、「二人でお酒や食事を楽しむ」(40.0%)、「充実感が増す」(33.0%)、「共通の趣味や話題で盛り上がる」「ラブラブな気分が増す」(各 30.5%)など“良い気分”による理由が上位を占めており、その割合はいずれも【熟年夫婦】を大きく上回るとともに、“悪い気分”による理由はごくわずかしかがあげられていません。

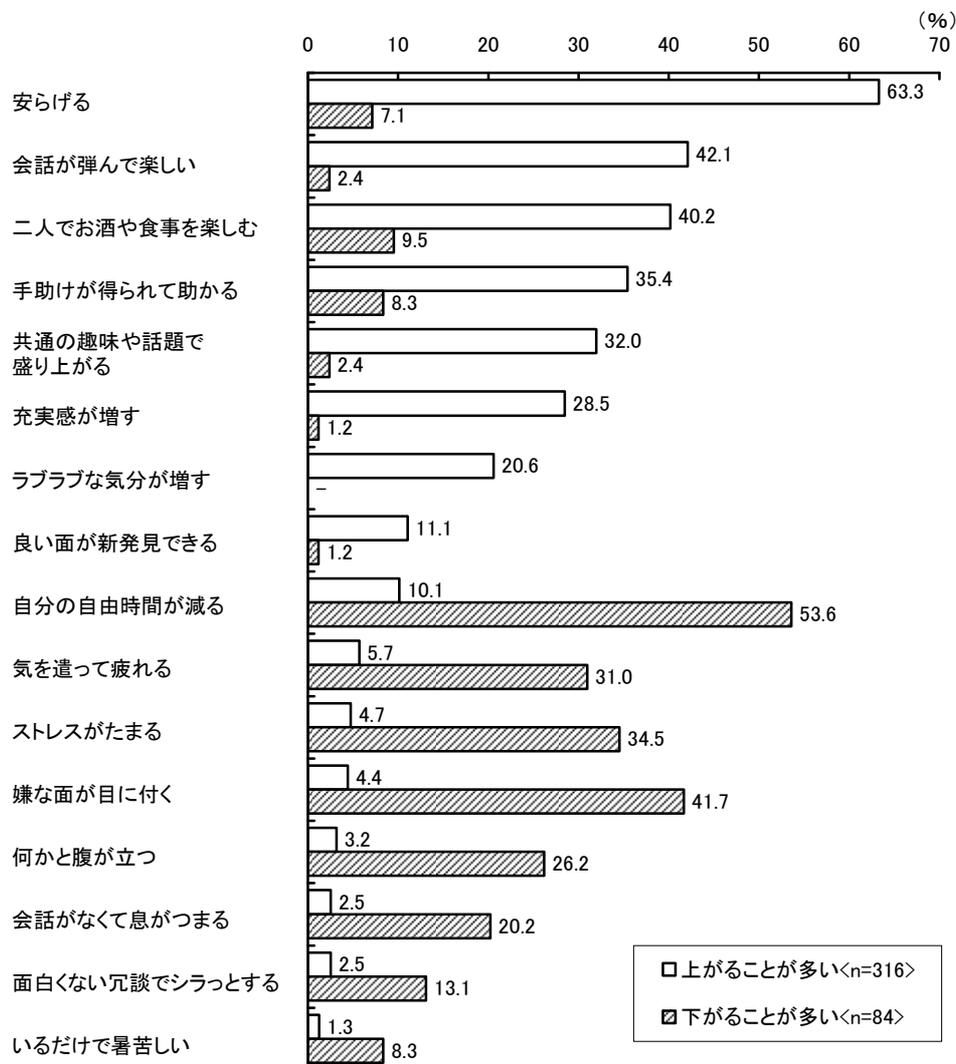
	団塊世代層【熟年夫婦】			団塊ジュニア世代層【新米夫婦】		
	計 N=200	性別		計 N=200	性別	
		男性 n=100	女性 n=100		男性 n=100	女性 n=100
安らげる	40.0	55.0	25.0	63.0	65.0	61.0
手助けが得られて助かる	30.0	34.0	26.0	29.5	25.0	34.0
二人でお酒や食事を楽しむ	27.5	31.0	24.0	40.0	44.0	36.0
自分の自由時間が減る	26.5	14.0	39.0	12.0	16.0	8.0
会話が弾んで楽しい	21.0	22.0	20.0	46.5	40.0	53.0
共通の趣味や話題で盛り上がる	21.0	16.0	26.0	30.5	27.0	34.0
気を遣って疲れる	15.0	7.0	23.0	7.0	6.0	8.0
嫌な面が目につく	14.5	9.0	20.0	10.0	6.0	14.0
ストレスがたまる	13.5	6.0	21.0	8.5	6.0	11.0
充実感が増す	12.5	11.0	14.0	33.0	29.0	37.0
何かと腹が立つ	10.0	5.0	15.0	6.0	5.0	7.0
会話がなくて息がつまる	9.5	6.0	13.0	3.0	6.0	-
良い面が新発見できる	6.5	9.0	4.0	11.5	12.0	11.0
面白くない冗談でシラっとする	6.5	2.0	11.0	3.0	2.0	4.0
いるだけで暑苦しい	4.0	2.0	6.0	1.5	1.0	2.0
ラブラブな気分が増す	2.0	2.0	2.0	30.5	29.0	32.0

● 性別に見ると、【熟年夫婦】の<男性>は「安らげる」(55.0%)が最も多く、以下「手助けが得られて助かる」(34.0%)、「二人でお酒や食事を楽しむ」(31.0%)などの“良い気分”による理由が続いていますが、<女性>は「自分の自由時間が減る」(39.0%)の“悪い気分”による理由がトップとなっています。

一方、【新米夫婦】は<男性><女性>ともに「安らげる」(65.0%、61.0%)が最も多く、そのほか「会話が弾んで楽しい」(40.0%、53.0%)、「二人でお酒や食事を楽しむ」(44.0%、36.0%)など“良い気分”による理由が上位を占めており、“悪い気分”による理由は男女いずれからもほとんどあげられていません。

- 職業別に見ると、【熟年夫婦】の<専業主婦>は「自分の自由時間が減る」(42.6%)が4割を超えており他の属性を大きく上回っています。<専業主婦>は自分の自由時間が減らされていると大きな不満をいただいているようです。
- 家族構成別に見ると、【新米夫婦】では<夫婦のみの世帯>は「安らげる」「会話が弾んで楽しい」「二人でお酒や食事を楽しむ」「充実感が増す」などほとんどの“良い気分”による理由が<夫婦と子どもの世帯>を上回っていますが、“良い気分”による理由のうち「手助けが得られて助かる」だけは<夫婦と子どもの世帯>が<夫婦のみの世帯>を上回っています。子どものいる世帯では夫婦が協力しあっていることが多いようです。

図7. 体感温度が上がるか下がるか別に見た変化する理由【複数回答】



また、気分が良い時には体感温度は上がるものなのか下がるものなのか、また気分が悪い時には体感温度は上がるものなのか下がるものなのかを明らかにするため、前章で検証した<体感温度が上がることが多い、下がることが多い>ごとにその理由を見てみました。

<体感温度が上がることが多い>では「安らげる」(63.3%)が最も多く、以下「会話が弾んで楽しい」(42.1%)、「二人でお酒や食事を楽しむ」(40.2%)、「手助けが得られて助かる」(35.4%)、「共通の趣味や話題で盛り上がる」(32.0%)など“良い気分による理由”が上位を占め、“悪い気分による理由”はごくわずかです。

一方、<体感温度が下がるが多い>では「自分の自由時間が減る」(53.6%)を始め、「嫌な面が目につく」(41.7%)、「ストレスがたまる」(34.5%)、「気を遣って疲れる」(31.0%)、「何かと腹が立つ」(26.2%)など“悪い気分を意味する理由”が上位を占めており、“良い気分を意味する理由”はほとんど見られません。

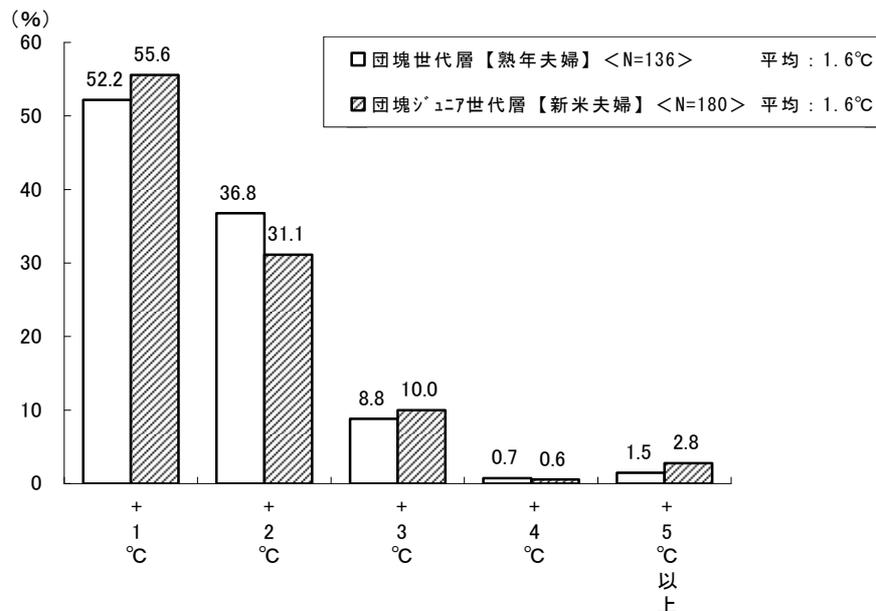
このことから、“体感温度が上がる”とは良い気分の時、“体感温度が下がる”とは“悪い気分”の時を指すようです。

(3) 体感温度の上がる温度と下がる温度

〈上がる〉では【熟年夫婦】【新米夫婦】ともに+1.6°Cで世代による差がないが、〈下がる〉では【熟年夫婦】の方が下がる度数が大きい。

◆〈上がる〉では【新米夫婦】の〈女性〉は〈男性〉より高く、〈下がる〉では【熟年夫婦】の〈女性〉は〈男性〉より低い。

図8. 体感温度は何度上がると感じるか（上がるとの回答者のみ）

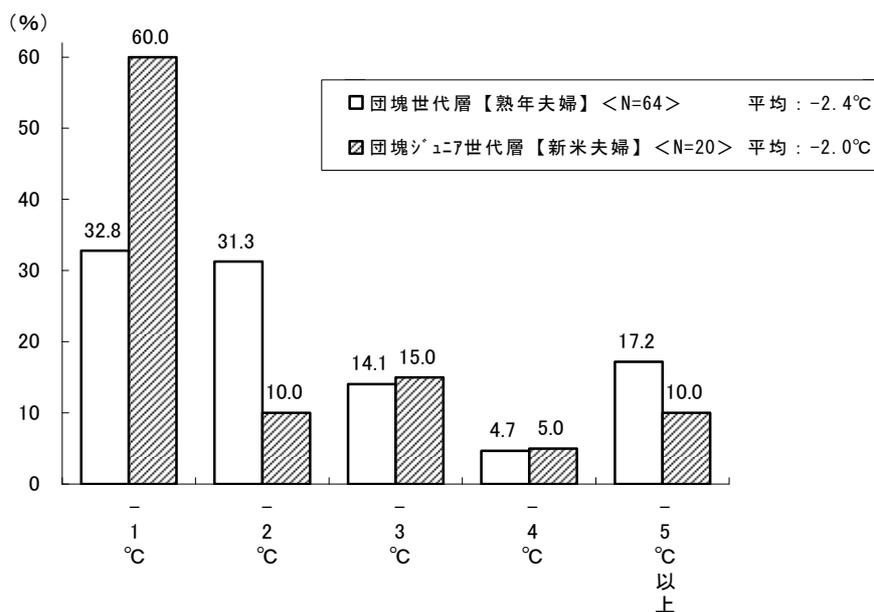


体感温度が上がると答えた人は、何度くらい上がると感じているのでしょうか。

【熟年夫婦】【新米夫婦】ともに「+1°C」(52.2%、55.6%)が半数以上を占めており、「+2°C」(36.8%、31.1%)が3割強、「+3°C」(8.8%、10.0%)が1割程度となっており、「+4°C」(0.7%、0.6%)や「+5°C以上」(1.5%、2.8%)はごくわずかです。平均度数は【熟年夫婦】【新米夫婦】ともに+1.6°Cで、世代による違いはほとんど見られません。

- 性別に見ると、【新米夫婦】で〈男性〉は「+2°C」(35.9%)が〈女性〉(26.1%)を上回り、〈女性〉は「+3°C」(15.9%)が〈男性〉(4.3%)を上回っています。平均は〈男性〉の+1.5°Cに対して〈女性〉は+1.7°Cと、〈女性〉の方がやや高くなっています。
- 家族構成別に見ると、【新米夫婦】で〈夫婦と子どもの世帯〉は「+1°C」(63.6%)が〈夫婦のみの世帯〉(50.9%)を上回っていますが、〈夫婦のみの世帯〉は「+2°C」(34.2%)が〈夫婦と子どもの世帯〉(25.8%)を上回っています。平均は〈夫婦のみの世帯〉が+1.7°C、〈夫婦と子どもの世帯〉が+1.5°Cと、〈夫婦のみの世帯〉の方がやや高くなっています。

図9．体感温度は何度下がると感じるか（下がる時の回答者のみ）



では、体感温度が下がると答えた人は、何度くらい下がると感じているのでしょうか。同様に、下がる度数を答えてもらいました。

【熟年夫婦】は「-1°C」（32.8%）と「-2°C」（31.3%）がともに3割を超えており、「-5°C以上」（17.2%）も少なくありません。平均は-2.4°Cとなっています。一方、【新米夫婦】は、サンプル数が少ないため（20人）参考ですが、「-1°C」（60.0%）に比較的集中しており、平均は-2.0°Cです。【熟年夫婦】の方が下がる度数が大きくなっています。

- 性別に見ると、【熟年夫婦】の<男性>は「-1°C」（41.7%）、「-2°C」（33.3%）が多く平均は-2.1°Cとなっていますが、【熟年夫婦】の<女性>は「-2°C」（30.0%）が最も多く、「-5°C以上」（22.5%）も2割を超えるなど平均は-2.6°Cと、<男性>より下がる度数が大きくなっています。

(4) 最近体感温度が上がったこと

良い意味の内容では“一緒に何かをする”ことが多くあげられている。そのほか、「子ども」に関すること、「優しい心遣い」なども多い。
悪い意味の内容では「喧嘩」が多い。

最近、どんなことで体感温度が上がったか具体的にあげてもらいました。

件数から言えば良い意味での内容が圧倒的に多くあげられています。“体感温度が上がる”とは良いことがあった時の興奮状態を指すと考えている人が多いようです。

良い意味での内容では、いずれの属性でも「一緒に出かけた」「旅行に行った」「食事をした」など“一緒に何かをした”ことが多くあげられています。また、「子ども」に関することや「優しい心遣い」なども多くあげられています。そのなかで【新米夫婦】の<女性>は「夫と一緒にいた」や「話をした」というだけで体感温度が上がると思っています。

悪い意味での内容では「喧嘩」が多くあげられていますが、【熟年夫婦】の<女性>では「酒」や「火事を手伝わない」ことなどもあげられています。ちなみに悪い内容を最も多くあげているのは【熟年夫婦】の<女性>でした。

■具体的な回答内容

良い意味で

<熟年夫婦・夫>

- ・旅行に行った (6件)
- ・孫や子どものこと (6件)
- ・一緒にウォーキング、スポーツをした (4件)
- ・一緒に出かけた (2件)
- ・クリスマスでいいことがあった (2件)
- ・面倒なことをやってもらった (2件)
- ・話がはずんだ (2件)
- ・一緒に楽しめることがあった (2件)
- ・一緒に庭の手入れをした

<熟年夫婦・妻>

- ・旅行に行った、行くことになった (4件)
- ・話をして盛り上がった (4件)
- ・孫や子どものこと (4件)
- ・家事を手伝ってくれる (3件)
- ・一緒に食事を楽しんだ (3件)
- ・気遣ってくれる (2件)
- ・優しいことを言われた (2件)
- ・プレゼントをもらった (2件)
- ・テレビを見て同じ気持ちになった (2件)
- ・散歩したあと
- ・病院に車で送ってくれた
- ・雨になったが傘が一本しかなくて久しぶりに腕を組んで相合傘で歩いた
- ・誕生日と一緒にゴルフに行った

- ・一緒に落語を聞いて大笑いした
- ・運動をした
- <新米夫婦・夫>
 - ・妊娠、出産の立ち会い（4件）
 - ・仲良く話をした（3件）
 - ・一緒に出かけた（3件）
 - ・スキンシップでラブラブになった（3件）
 - ・子どもの話題（2件）
 - ・旅行に行った、行くことになった（2件）
 - ・クリスマスが楽しかった（2件）
 - ・共通の趣味で盛り上がった（2件）
 - ・おいしいものを食べた（2件）
 - ・髪を切って綺麗になったこと
 - ・プレゼントをもらった
 - ・住宅取得について話し合いをした
 - ・笑顔を見た時
 - ・新年会終了後に車で迎えに来てもらった
 - ・二人だけで個室にいるとき
 - ・記念日
 - ・妻の話に大笑いした
 - ・手作りのおやつ
 - ・二人でアホなことをする。

- <新米夫婦・妻>
 - ・夫と一緒にいた（8件）
 - ・話をした（7件）
 - ・一緒に出かけた（5件）
 - ・子どもを囲んで一緒に遊んだ（4件）
 - ・優しくしてくれた（4件）
 - ・体調が悪いとき気遣ってくれた（3件）
 - ・一緒に食事に出かけた（3件）
 - ・一緒に笑った（3件）
 - ・スキンシップでラブラブ（3件）
 - ・子どものことを話した（2件）
 - ・プレゼントをもらった
 - ・映画を一緒に観て泣いた
 - ・夫が二人の思い出の品をしまっているのを発見し、二人で懐かしんだ

悪い意味で

- <熟年夫婦・夫>
 - ・自分は何気なく言った言葉を傷つけたと言われた。家族なら当たり前と思っているのに
- <熟年夫婦・妻>
 - ・イライラさせられた（2件）
 - ・悪酔い酒で絡まれた
 - ・テレビばかり見て、家事をしていても手伝おうとしない
 - ・自我を押し通し、忠告を聞こうとしない
 - ・口論

- ・意見の食い違いがおきた
 - ・言葉の行き違いが多くなった
 - ・見たいテレビ番組が違って、思うようにならない
 - ・八つ当たりされた
- <新米夫婦・夫>
- ・喧嘩をした
- <新米夫婦・妻>
- ・喧嘩をした (3件)

(5) 最近体感温度が下がったこと

悪い意味の内容が多い。具体的には「喧嘩」を始め、「口うるさい」「しつこい」「うっとうしい」「ゴロゴロしている」なども。

また、逆に体感温度が下がったことについてもあげてもらいました。

件数は悪い意味での内容が圧倒的に多くを占めています。“体感温度が下がる”とは悪いことがあった時の精神状態を指すと考えている人が多いようです。

良い意味での内容では、【熟年夫婦】の<女性>に「食事が美味しかった」「手伝ってくれた」などがごくわずかあげられているだけです。

悪い意味での内容ではどの層からも「喧嘩」が大変多くあげられています。そのほか、【熟年夫婦】【新米夫婦】の<男性>から「口うるさい」、【熟年夫婦】の<女性>から「まとわりつく」「しつこい」「うっとうしい」、【新米夫婦】の<女性>から「ゴロゴロしている」「出かけてしまった」などがあげられています。

■具体的な回答内容

良い意味で

<熟年夫婦・妻>

- ・二人だけで食事に行き美味しかった
- ・暮れの大掃除など、自分が足腰が悪くなったのでよく手伝ってくれた
- ・夫の帰宅時間が早くなってきた

悪い意味で

<熟年夫婦・夫>

- ・喧嘩をした（4件）
- ・妻が口うるさい（2件）
- ・言葉の一言一言
- ・いつも愚痴られる
- ・干渉される事が増えた
- ・一人の時間をつぶされた
- ・買い物で意見が合わない
- ・弁当に箸を入れ忘れていた
- ・気を使う女房の顔を見たときに、疲れるような気持ちが現れた
- ・妻が肺炎を起こしそうになったので心配だった

<熟年夫婦・妻>

- ・夫がまとわりつくようになって自分の時間が持てなくなった（4件）
- ・しつこい（2件）
- ・自分で出来ることをしないで私にさせる（2件）
- ・話がはずまない（2件）
- ・気を使えばなしでストレスがたまる（2件）
- ・30年以上いっしょにいるのに話が通じなくていらいらする
- ・たびたび喧嘩になる
- ・同時に風邪を引いたとき自分の方が「具合が悪い」と決め込む
- ・年末の大掃除をあまり手伝ってくれなかった

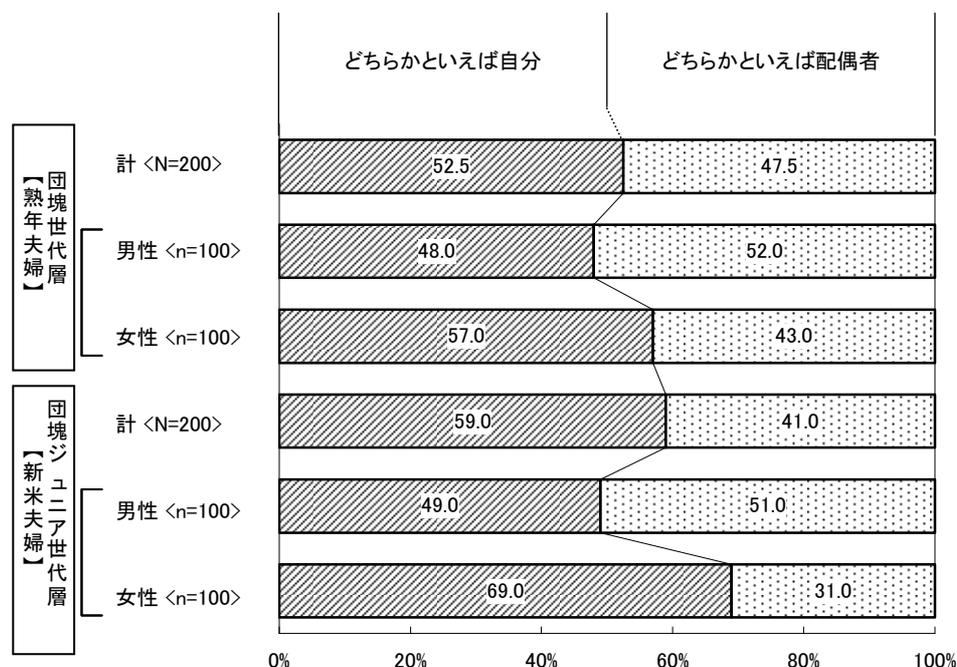
- ・難しい顔をしている時
 - ・気難しい話を聞かされる
 - ・態度
 - ・1年半前に近くに義母が越してきてから夫婦の間に気持ちのずれが生じはじめた
 - ・高額な絵画を買われた時
 - ・私が駅まで車で迎えに来てと頼んだが、高校サッカーの決勝戦を見ていて断られた
 - ・主人の体の不調
 - ・主人の部下が来て、ベロベロで寝てしまい、料理から片付けまで一人でした私に「ご苦労様」の一言もなし
 - ・夫と折り合いの悪い次女が帰省し双方に気を使って疲れた
 - ・有言無実行が目につく
- <新米夫婦・夫>
- ・喧嘩をした（11件）
 - ・自分だけの時間がなくなっていく（2件）
 - ・ダイエットしろとうるさく言われたとき
 - ・何かしているときに声をかけられるといらっとする
 - ・子供のことでイライラしていてやつあたりされたとき
 - ・存在全て
 - ・友人とだけ共通の話をした後で、「内容が理解できない話を延々されると腹が立つ」と言われた
- <新米夫婦・妻>
- ・喧嘩をした（5件）
 - ・いつまでも寝ている、ゴロゴロしている（3件）
 - ・休日にゴルフに行ってしまった
 - ・月の半分は出張で夫が家にいない
 - ・休みだと思っていたのに、昼間に少し会社に出ることになった
 - ・何でも人に押し付ける
 - ・えらそうに、うるさく言われる
 - ・荷物をたくさん持っても気をきかしてくれなかった
 - ・思いやりのなさを改めて感じた
 - ・つい口から出たほんの一言に主人が過剰に反応して怒り出してしまった
 - ・育児に疲れている時のだんなの態度
 - ・会話がない
 - ・仕事が忙しいので、疲れきった顔と態度で帰ってくるのを見たとき
 - ・実家に帰省していたら、私の敷布団を自分の敷布団のマット代わりにしていた
 - ・スピード違反で捕まり罰金8万円。独身時代と意識が変わらないことにながっかり
 - ・自分の実家の家族を大事にしすぎていると感じるとき
 - ・夫のお母さんが作って下さった手作りの食器を夫の目の前で割ってしまった
 - ・配偶者が風邪を引いて寝込んだ
 - ・約束を破られた
 - ・主人といるときに昔の恋人がいきなりメールをしてきたとき

5. エアコンの温度調節

(1) エアコンの温度決定権を持つ人

【熟年夫婦】【新米夫婦】とも、＜男性＞は「どちらかといえば配偶者」、＜女性＞は「どちらかといえば自分」が多い。

図10. エアコンの温度調節の決定権を持つのは夫婦のどちら



夫婦でリビングルームにいる時エアコンの温度調節決定権はどちらが持っているのか聞きました。

【熟年夫婦】では、＜男性（夫）＞の半数強が「どちらかといえば配偶者」（52.0%）と答えており、「どちらかといえば自分」（48.0%）は半数弱にとどまっています。それを裏付けるように、＜女性（妻）＞は半数強が「どちらかといえば自分」（57.0%）と答えており、「どちらかといえば配偶者」（43.0%）は4割強にとどまっています。

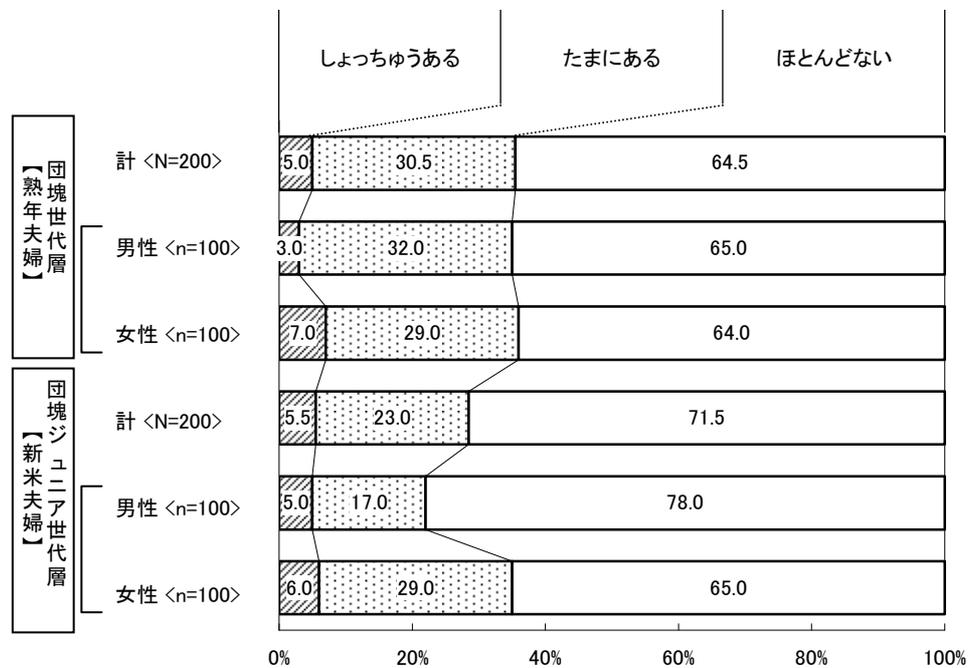
【新米夫婦】もその傾向は同様で、＜男性（夫）＞は半数強が「どちらかといえば配偶者」（51.0%）と回答し、「どちらかといえば自分」（49.0%）は半数に満たないという結果です。＜女性（妻）＞はさらに顕著で、「どちらかといえば自分」（69.0%）が7割弱を占め、「どちらかといえば配偶者」（31.0%）は3割となっています。

いずれの世代でもエアコンの温度調節決定権は「妻」の方が優勢であることは間違いないようです。

(2) 温度調整でもめることの有無

【熟年夫婦】【新米夫婦】とも「ほとんどない」(64.5%、71.5%)が多く、「しょっちゅうある」や「たまにある」はさほど多くない。

図11. 温度調整でもめることがあるか



夫婦で一緒にいる時、温度調整のことでもめることがあるか聞いてみました。

【熟年夫婦】では「ほとんどない」(64.5%)が6割以上を占めており、「しょっちゅうある」(5.0%)はわずかにすぎず、「たまにある」(30.5%)が3割見られるだけです。

【新米夫婦】も同様の傾向を示しており、「ほとんどない」(71.5%)が7割を超えており、「しょっちゅうある」(5.5%)や「たまにある」(23.0%)はさほど多くありません。

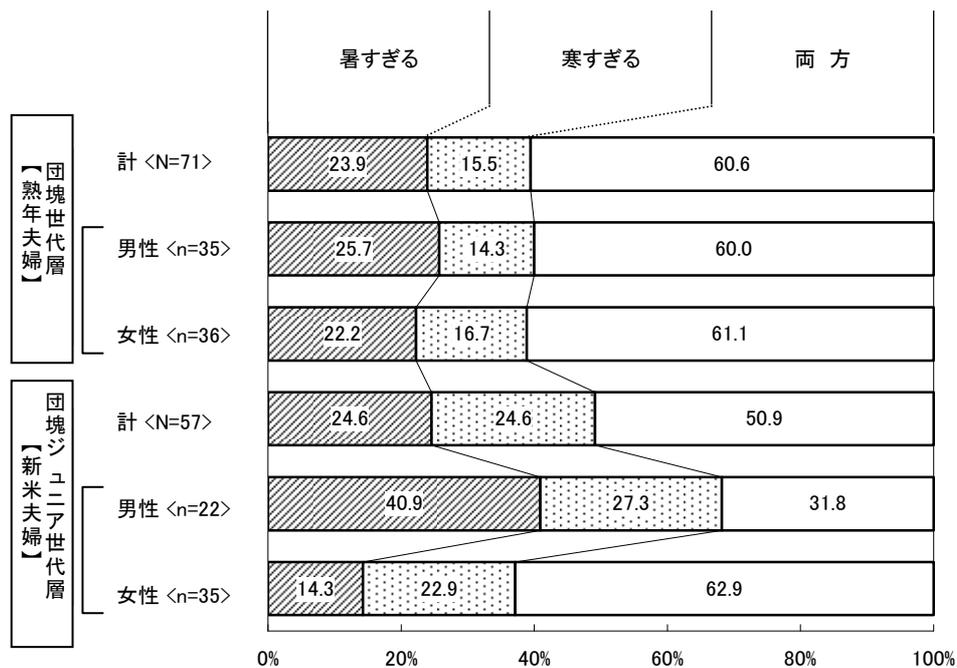
- 性別に見ると、【新米夫婦】の<男性>は「しょっちゅうある」と「たまにある」をあわせた“ある”(22.0%)が<女性>(35.0%)や【熟年夫婦】(男性 35.0%、女性 36.0%)を下回っています。

(3) 温度設定でもめる内容

【熟年夫婦】【新米夫婦】とも「両方」(60.6%、50.9%)が半数を超える。以下、【熟年夫婦】は「暑すぎる」(23.9%)、「寒すぎる」(15.5%)の順だが、【新米夫婦】は「暑すぎる」「寒すぎる」(各24.6%)が同率。

◆【新米夫婦】の<男性>は「暑すぎる」(40.9%)が他を上回る。

図12. 温度設定のどんなことでもめるか (もめることがあるとの回答者のみ)



もめることがあると回答した人に、どんなことでもめるのかを聞きました。

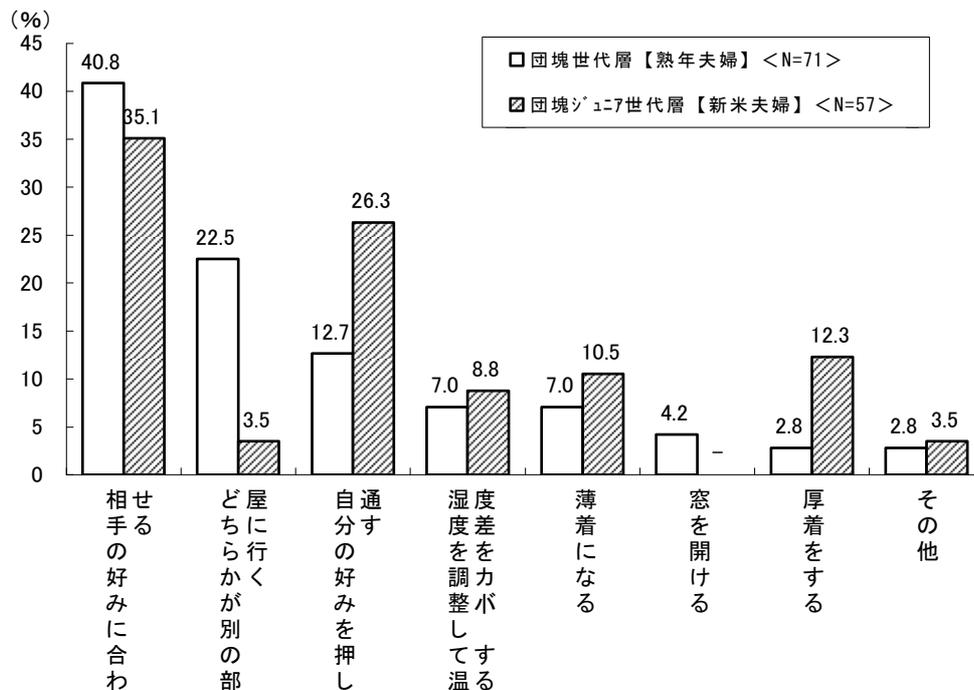
【熟年夫婦】【新米夫婦】ともに「両方」(60.6%、50.9%)が半数を超えている。以下、【熟年夫婦】は「暑すぎる」(23.9%)、「寒すぎる」(15.5%)の順となっているのに対して、【新米夫婦】は「暑すぎる」「寒すぎる」(各24.6%)が同率となっています。

- 性別に見ると、【新米夫婦】の<男性>は「暑すぎる」(40.9%)が4割を占め、他の属性を上回っています。

(4) 好みの設定温度が異なる時の対処方法

【熟年夫婦】の<男性><女性>、【新米夫婦】の<男性>は「相手の好みに合わせる」(42.9%、38.9%、50.0%)が最も多いが、【新米夫婦】の<女性>は「自分の好みを押し通す」(40.0%)が最も多い。

図13. 好みの設定温度が異なる時の対処方法 (もめることがあるとの回答者のみ)



もめることがあるという人に、さらに、もめた時にはどのようにしているのかについても聞いてみました。

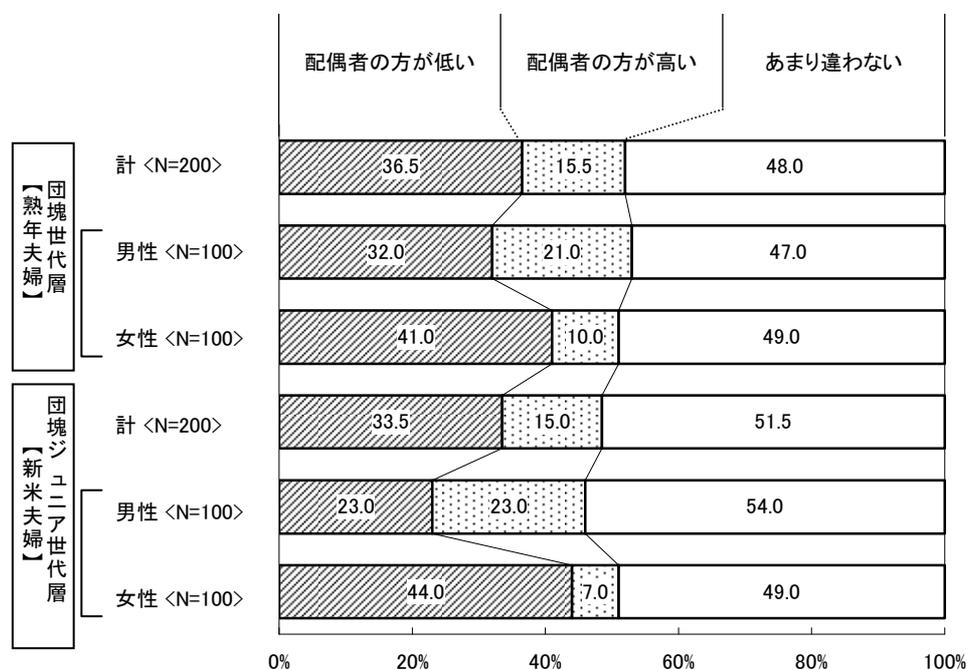
【熟年夫婦】は「相手の好みに合わせる（妥協する）」(40.8%)が最も多く、次いで「どちらかが別の部屋に行く」(22.5%)の順となっています。【新米夫婦】も最も多いのは「相手の好みに合わせる（妥協する）」(35.1%)ですが、次いで「自分の好みを押し通す（我を通す）」(26.3%)が多くなっています。

- 性別に見ると、【熟年夫婦】は<男性><女性>ともに「相手の好みに合わせる（妥協する）」(42.9%、38.9%)が最も多く、【熟年夫婦】の<女性>は「どちらかが別の部屋に行く」(33.3%)が次いで多くなっています。【新米夫婦】も<男性>は「相手の好みに合わせる（妥協する）」(50.0%)がトップで、それ以外の回答はいずれもごくわずかですが、【新米夫婦】の<女性>は「自分の好みを押し通す（我を通す）」(40.0%)が最も多くなっています。

(5) 夫婦間での好みの室温の差

夏は、両世代とも<女性>の方が「配偶者の方が低い」が多いが、冬は大きな違いは見られない。

図14. 夏は夫婦間で好みの室温に何度くらい差があるか



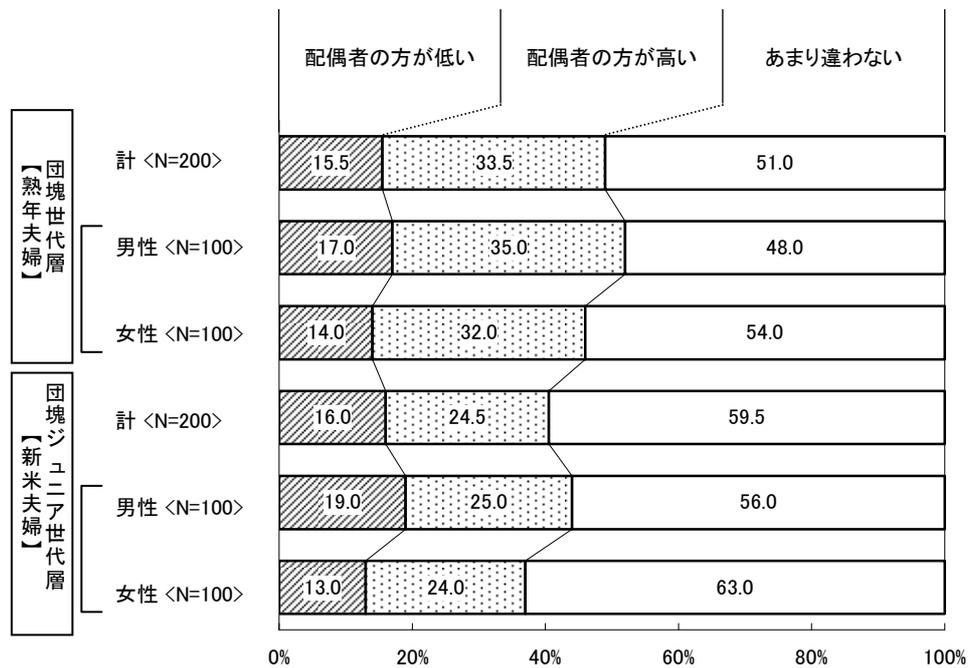
自分自身と配偶者の中で好みの室温に何度くらい差があるのかについて聞いてみました。

夏について、「あまり変わらない」がいずれの属性でも半数程度を占めていますが、それ以外を見てみると、【熟年夫婦】の<男性>は「配偶者（妻）の方が低い」（32.0%）と「配偶者（妻）の方が高い」（21.0%）が小差ですが、<女性>は「配偶者（夫）の方が低い」（41.0%）が4割を占め、「配偶者（夫）の方が高い」（10.0%）を大きく上回っています。また、“低い”とする温度は平均で<男性>が -2.5°C （妻の方が低い）、<女性>が -3.0°C （夫の方が低い）となっています。

また、【新米夫婦】でも<男性>は「配偶者（妻）の方が低い」と「配偶者（妻）の方が高い」（各23.0%）が全く同率となっているのに対して、<女性>は「配偶者（夫）の方が低い」（44.0%）が「配偶者（夫）の方が高い」（7.0%）を大きく上回っています。

“低い”とする温度も平均で<男性>が -2.5°C （妻の方が低い）であるのに対して、<女性>は -3.6°C （夫の方が低い）と<男性>を上回っています。

図15. 冬は夫婦間で好みの室温に何度くらい差があるか



冬については、【熟年夫婦】は<男性><女性>とも半数程度が「あまり変わらない」(48.0%、54.0%)とし、「配偶者の方が高い」(35.0%、32.0%)が3割強、「配偶者の方が低い」(17.0%、14.0%)が1割強となっており、あまり大きな違いは見られません。

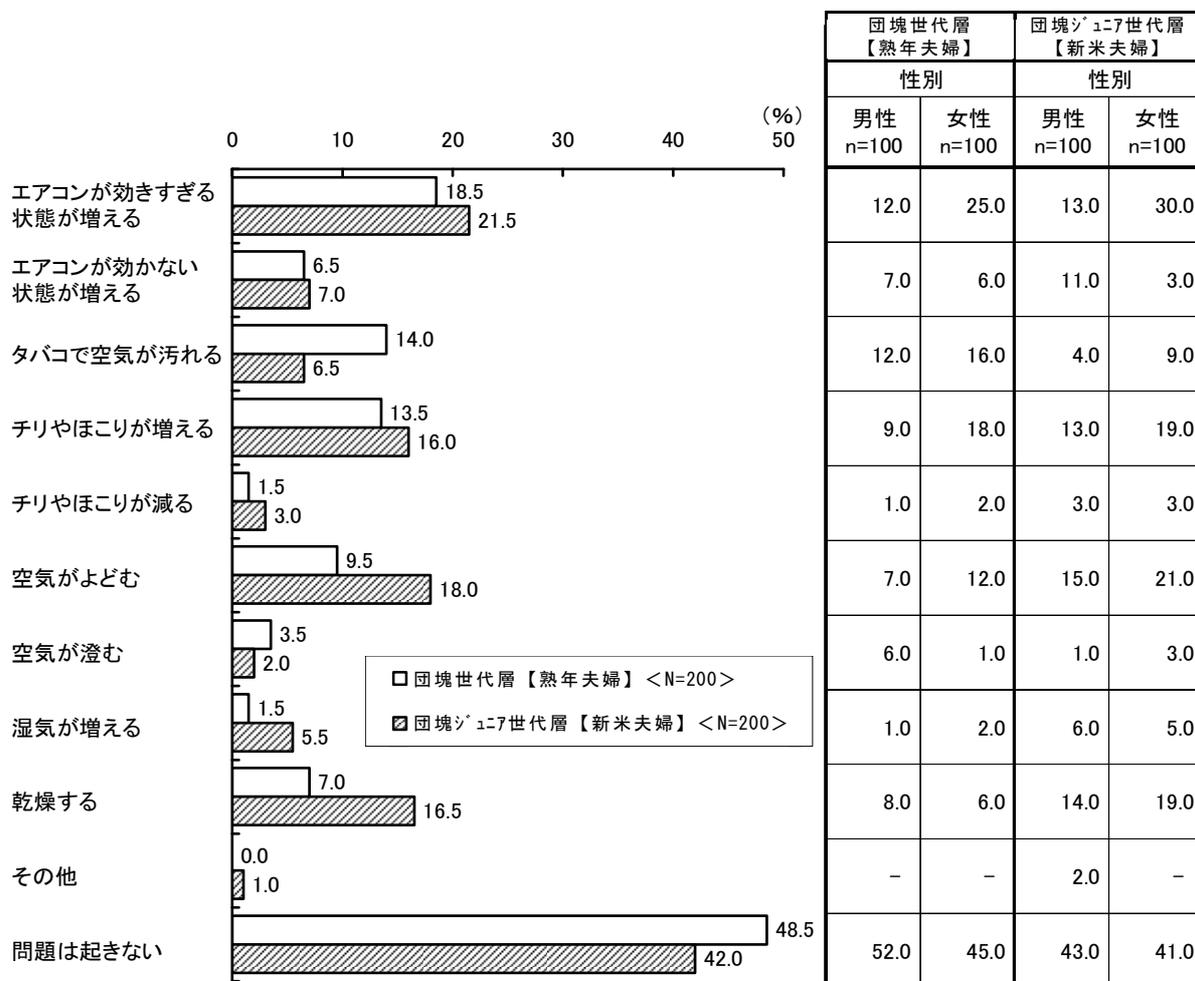
【新米夫婦】も<男性><女性>とも「あまり変わらない」(56.0%、63.0%)が半数を超え、以下「配偶者の方が高い」(25.0%、24.0%)が2割強、「配偶者の方が低い」(19.0%、13.0%)が1割強で続いており、同様の結果となっています。

6. 夫婦で一緒にいる時に起きそうな問題

最も多いのは【熟年夫婦】【新米夫婦】とも「エアコンが効きすぎる（強すぎる）状態が増える」（18.5%、21.5%）。

◆＜女性＞は両世代とも「エアコンが効きすぎる状態が増える」（25.0%、30.0%）がとりわけ多い。

図16. 夫婦で一緒にいる時に起きそうな問題【複数回答】



夫婦でリビングに一緒にいる時間が増えた時、どんな問題が起きそうかあげてもらいました。

【熟年夫婦】【新米夫婦】とも半数弱が「問題は起きない」（48.5%、42.0%）としていますが、半数以上は「何らかの問題が起きそう」としてさまざまな問題をあげています。

起きそうな問題で最も多いのは【熟年夫婦】【新米夫婦】ともに「エアコンが効きすぎる（強すぎる）状態が増える」（18.5%、21.5%）で、ともに2割前後があげています。以下、【熟年夫婦】は「タバコで空気が汚れる」（14.0%）、「チリやほこりが増える」（13.5%）が続いていますが、【新米夫婦】は「空気がよどむ（換気がおろそかになる）」（18.0%）、「乾燥する」（16.5%）、「チリやほこりが増える」（16.0%）が続いています。

●性別に見ると、【熟年夫婦】の＜女性＞は「エアコンが効きすぎる状態が増える」

(25.0%) が最も多く、以下「チリやほこりが増える」(18.0%)、「タバコで空気が汚れる」(16.0%)、「空気がよどむ」(12.0%) が1割強で続いています。【新米夫婦】の<女性>も「エアコンが効きすぎる状態が増える」(30.0%) が最も多く3割があげています。そのほか、「空気がよどむ」(21.0%)、「チリやほこりが増える」「乾燥する」(各 19.0%) も2割前後があげています。あげている割合はどちらの世代もおしなべて<女性>が<男性>を上回っています。

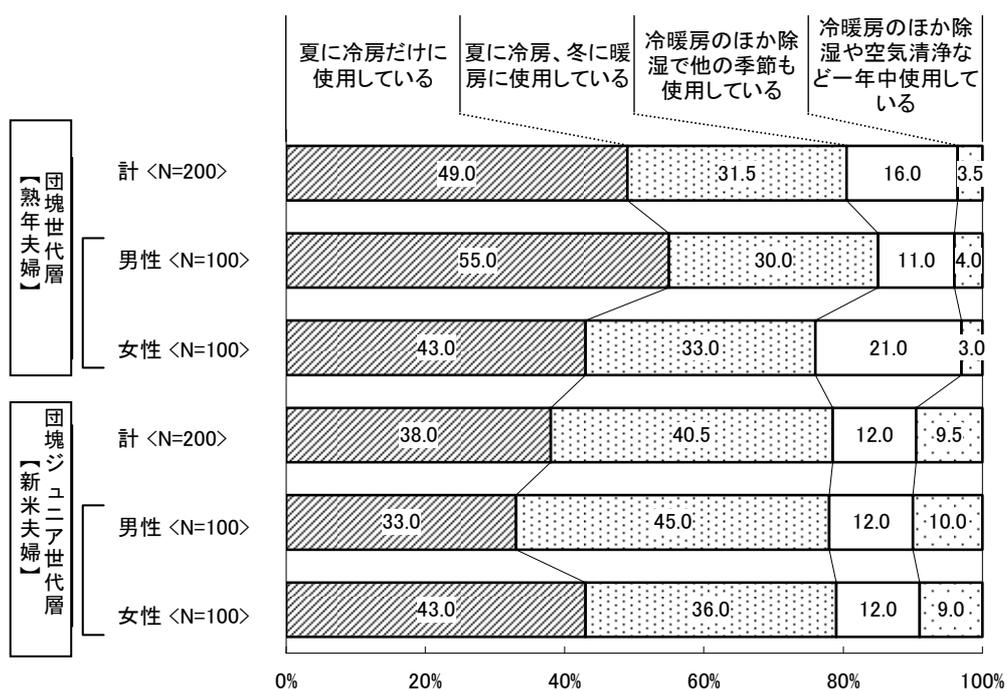
- 家族構成別に見ると、【熟年夫婦】【新米夫婦】とも「問題は起きない」を除いた“何らかの問題が起きそう”とする割合は<夫婦と子どもの世帯> (54.5%、62.2%) が<夫婦のみの世帯> (45.5%、55.6%) を上回っています。リビングの空気に関する心配事は“子どものいる世帯”の方が多いようです。
- 住宅構造別に見ると、【熟年夫婦】【新米夫婦】とも「エアコンが効きすぎる状態が増える」は<集合住宅> (20.0%、21.9%) が<一戸建て> (17.2%、17.1%) を上回っており、「タバコで空気が汚れる」も<集合住宅> (16.0%、7.1%) が<一戸建て> (12.3%、2.9%) を上回っています。

7. エアコンの使用頻度

【熟年夫婦】は「夏に冷房だけに使用」(49.0%)がほぼ半数を占めるが、【新米夫婦】は「夏に冷房、冬に暖房に使用」(40.5%)が最も多く、「冷暖房、除湿で他の季節も使用」(12.0%)、「冷暖房、除湿や加湿、空気清浄などほぼ一年中使用」(9.5%)もそれぞれ1割。

◆【熟年夫婦】の<男性>は「夏に冷房だけに使用」(55.0%)がとりわけ多いが、【新米夫婦】の<男性>は「夏に冷房、冬に暖房に使用」(45.0%)が最も多い。

図17. エアコンの使用頻度



現在、エアコンをどの程度使用しているのか、その頻度について聞きました。

【熟年夫婦】は「夏に冷房だけに使用」(49.0%)がほぼ半数を占めており、「夏に冷房、冬に暖房に使用」(31.5%)が3割で続いています。「冷暖房、除湿で他の季節も使用」(16.0%)は1割強で、「冷暖房、除湿や加湿、空気清浄などほぼ一年中使用」(3.5%)はごくわずかです。

一方、【新米夫婦】は「夏に冷房、冬に暖房に使用」(40.5%)が最も多く、次いで「夏に冷房だけに使用」(38.0%)の順となっています。また、「冷暖房、除湿で他の季節も使用」(12.0%)、「冷暖房、除湿や加湿、空気清浄などほぼ一年中使用」(9.5%)はともに1割程度となっています。エアコンは【新米夫婦】の方が幅広く活用しているようです。

- 性別に見ると、【熟年夫婦】の<男性>は「夏に冷房だけに使用」(55.0%)が半数を超えており、それ以上の使用法はいずれも他の層を下回っています。一方、【新米夫婦】の<男性>は「夏に冷房、冬に暖房に使用」(45.0%)が最も多く、「冷暖房、

- 除湿で他の季節も使用」(12.0%)、「冷暖房、除湿や加湿、空気清浄などほぼ一年中使用」(10.0%)もそれぞれ1割となっており、「夏に冷房だけに使用」(33.0%)は他の層を大きく下回っています。なお、<女性>は世代による違いはあまり見られません。
- 地域別に見ると、<関西圏>は【熟年夫婦】【新米夫婦】とも「夏に冷房だけに使用」(53.0%、45.0%)が<首都圏>(45.0%、31.0%)を上回っているのに対して、<首都圏>は「夏に冷房、冬に暖房に使用」(35.0%、46.0%)が<関西圏>(28.0%、35.0%)を上回っています。しかし、「冷暖房、除湿で他の季節も使用」「冷暖房、除湿や加湿、空気清浄などほぼ一年中使用」ではほとんど違いは見られません。
 - 家族構成別に見ると、<夫婦のみの世帯>は【熟年夫婦】【新米夫婦】とも「夏に冷房だけに使用」(53.0%、42.1%)が<夫婦と子どもの世帯>(47.0%、31.1%)を上回っていますが、【熟年夫婦】の<夫婦と子どもの世帯>は「夏に冷房、冬に暖房に使用」(34.3%)が<夫婦のみの世帯>(25.8%)を、【新米夫婦】の<夫婦と子どもの世帯>は「冷暖房、除湿で他の季節も使用」(17.6%)が<夫婦のみの世帯>(8.7%)を上回っています。
 - 住居形態別に見ると、<賃貸>は【熟年夫婦】【新米夫婦】とも「夏に冷房だけに使用」(65.0%、40.3%)が<持ち家>(47.2%、32.1%)を上回っています。一方、<持ち家>は【熟年夫婦】では「夏に冷房、冬に暖房に使用」(32.8%)が、【新米夫婦】では「冷暖房、除湿で他の季節も使用」(21.4%)が<賃貸>(20.0%、8.3%)を大きく上回っています。
 - 住宅構造別に見ると、【熟年夫婦】では<一戸建て>は「夏に冷房、冬に暖房に使用」(33.6%)が<集合住宅>(26.7%)を上回っているのに対して、<集合住宅>は「冷暖房、除湿で他の季節も使用」(20.0%)が<一戸建て>(13.9%)を上回っています。一方、【新米夫婦】では<集合住宅>は「夏に冷房、冬に暖房に使用」(40.6%)が<一戸建て>(31.4%)を上回っているのに対して、<一戸建て>は「冷暖房、除湿で他の季節も使用」(20.0%)が<集合住宅>(10.3%)を上回っています。【熟年夫婦】と【新米夫婦】で全く逆の結果を示しています。